

Audit Analytics の適用例 在庫データの全量解析による可視化

アナリティクスで在庫を全量解析し、適正在庫に関する示唆を提供

Audit Analytics とは、企業の財務・非財務データを分析・可視化することで、効率的かつ効果的な監査を実現する有限責任監査法人トーマツ（トーマツ）の先進的な手法です。トーマツの被監査会社の監査において、在庫滞留分析を導入した場合にどのような分析を行っているかを紹介するとともに、実際に導入した被監査会社からどんな声が寄せられたかを紹介します。

1. アナリティクス導入前の事業環境と課題

事業環境	企業側の課題	監査側の課題
事業拡大・ラインナップの増加により保有在庫が増加、それに伴い在庫保管コストも増加傾向	多品種、膨大なデータ量ということもあり、事業部毎に経験と勘に基づく分析・報告がなされていた	- データが膨大なこともあり、仮説からだけでなくデータドリブンな見方の導入 - 作業の効率化

2. 被監査会社の監査に導入したアナリティクス：在庫滞留分析

分析内容

- 在庫数、在庫金額、回転率、不動期間などを分析項目として採用
- 全体の可視化により、品種・品目・事業部・市場などの属性情報毎に外れ値の識別

利用データ

- 在庫データ、入出庫データ、各種マスターデータ 等

主なメリット

- 在庫母集団全体としての傾向・実態の識別
- 過剰在庫（回転率）、不動在庫（最終払出日からの日数）について、それぞれの実態の把握
- データの欠損値やデータ間の不整合項目の識別

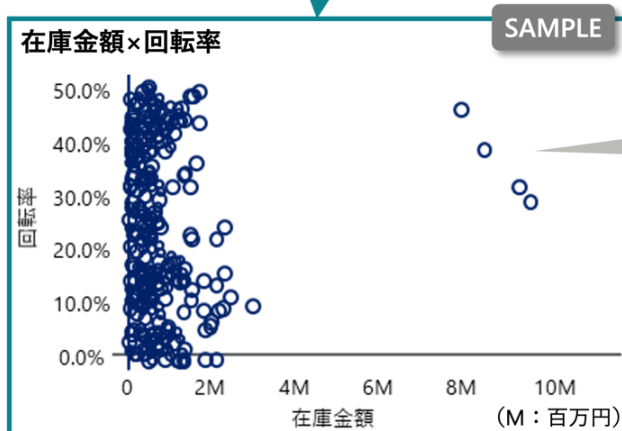
全体概要把握

品目別の全データを在庫の金額、回転率、売上金額、滞留期間を可視化します

監：監査法人 被：被監査会社

区分	評価減対象外	評価減対象 *1	SAMPLE 合計
全体	1,200M	200M	1,400M
(内数) 回転率 *2 50%以下	400M	180M	580M
(内数) 回転率 50%以下 かつ 滞留期間 30日以内	300M		300M

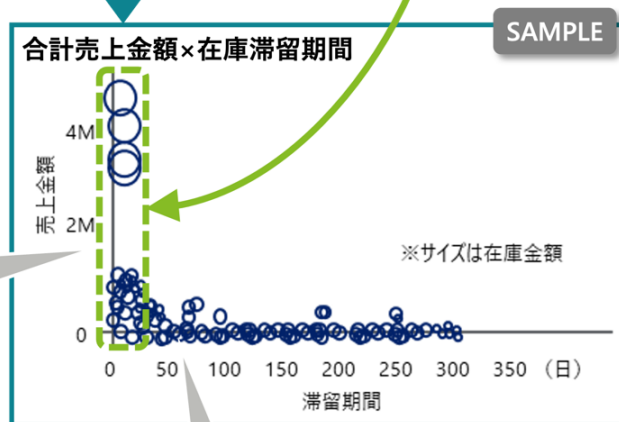
M：百万円



回転率が低い中に金額的に重要な製品が含まれている

- 監 評価減リスク
- 監 原価付替リスク

*1：一年以上販売のないものを一定のルールで評価減
*2：年間売上数量/期末保有在庫数



滞留期間だけでは識別できなかったが、回転率が低い製品の中に比較的売上の大きい主力製品も入っている

- 監 将来の評価減リスク
- 被 販売見込の再検討とともに、在庫水準の適正化・モニタリングの必要性

滞留期間と売上金額を比較することで、2ヵ月超の滞留品はその先ほとんど販売に至っていない

- 監 将来の評価減・廃棄リスク
- 監 現状の評価減ルールの在り方
- 被 直近の事業環境における在庫のライフサイクルを考慮した適正在庫の再設定の必要性

3. アナリティクス導入による被監査会社の監査における変化

■ 監査品質

在庫評価

- 全量解析とそれを踏まえた被監査会社との討議により、監査人の企業戦略の理解を含めたビジネス理解が深まり、被監査会社が納得感を感じるメリハリの利いた監査に繋げることができた。
- 長年採用されてきた在庫評価基準について、深度ある検討を実施することで、在庫評価基準改訂の要否に関する示唆を被監査会社に提言できた。
- 視覚的にデータを見ることが可能になるとともに、データ加工に関する作業が短縮されたことで、より多くの時間を被監査会社と監査人との間のコミュニケーション割けるようになり、解釈、判断等の討議を有意義にすることができた。

■ 付加価値

資金効率に関する洞察

- 監査人との討議を受け、被監査会社内で適正在庫の検討を進めた結果として、注力すべき製品群（領域）の明確化と、倉庫料等の保管コスト、値引販売、過剰在庫廃棄・廃棄コスト等の削減に繋げることができた。
- 近年の実態や在庫保有方針を踏まえた在庫評価基準の設定が可能になった。
- データの課題を識別できたとともに、監査人の分析に刺激を受け、データ利活用の機運が高まった。